

令和6年度 社会文教常任委員会 所管事務調査報告書

令和7年3月21日

富士見町議会

議長 牛山 基樹 殿

社会文教常任委員会

委員長 名取久仁春

社会文教常任委員会は、令和7年3月21日、南牧村美術民族資料館及び北相木村考古博物館を訪問し、出土品の展示及び遺跡の現場見学視察を実施しました。下記の通り報告します。

記

1. 目的 ・各博物館の出土品展示の工夫や遺跡保存の実態を視察し、
井戸尻新館建設に向けて見識を深める事
2. 視察場所 長野県南佐久郡 南牧村、北相木村
3. 期 間 令和7年3月21日（金）
4. 派遣議員 名取 久仁春、矢島 尚、織田 昭雄、山口 肇、西 明子、
5. 視察報告

委員2名がそれぞれの視察について報告書を作成しました。

報告書は、報告書①～②として添付しております。

① 南牧村「美術民俗資料館」 矢島 尚委員

② 北相木村「考古博物館」 山口 肇委員

社会文教常任委員会 所管事務調査報告書①

令和7年3月21日

社会文教常任委員会 副委員長 矢島 尚

訪 問 日 令和7年3月21日

訪 問 先 長野県南牧村美術民俗資料館

視 察 参 加 者 名取 久仁春 織田 昭雄 山口 肇 西 明子 矢島 尚

視 察 テ ー マ 南牧村の縄文時代の遺跡と展示品及び施設について

視 察 目 的 新井戸尻考古館建設に伴う施設や知識を学ぶため

視 察 内 容 南牧村教育委員会事務局 社会教育係 有坂恭祐 様より説明頂きました

1、報 告 南牧村は長野県の東端に位置し、標高は 1.000m～1.500mの高地。村の北東部にかけて千曲川(最上流域)が流れ、西南部には八ヶ岳がある。施設の最寄り駅はJR小海線「野辺山駅」、国道 141 号線沿いにあり駐車場も広く立ち寄りやすい立地でもある。年間の平均気温は 6.9℃、冬は－20℃を下回ることもあり寒い地域でもある。施設は 1987 年昭和 62 年に開館し 38 年経過、館内には冷暖房設備はなく、冬季期間は簡易的にファンヒーターなど使用。建設費用や館内の平米数の詳細はわからないとの事でした。(おおよその建物の大きさは1F 建て 40m×20m)

縄文時代(志なの入遺跡)についての出土品や展示品の説明を頂きました。この地域が注目されたのは、6.500 年前、志なの入遺跡で人骨が出土したとのことです。50 年前林道の工事により洞窟遺跡が発見され、信州大学医学部の調査により縄文時代の物と判明しました。なぜ人骨や獣骨がそのまま残っていたか、それは灰が堆積した土砂に混ざっていたことが要因とのこと。

担当者の有坂様は学芸員の資格はあるものの、役場入社時は一般職で入っているため長期間この施設には在籍できないとの事。今までの前任者職員の方々も素人なため井戸尻考古館のような縄文の統一性はなく常設展示と企画展示にわかれ、富士見町で言う文化祭のような多種類展示で有坂様はその様な物は撤廃したい旨をおっしゃっておられました。(剥製・写真・フラワーアレンジメント・機関車の骨董品など)

館内説明後、人骨が出土した志なの入遺跡へ案内して頂きました。国道 141 を海ノ口方面に下りおりた右側で、南相木・北相木へ向かう大きな橋を渡った左側の林道。案内看板あり

2、所 感 担当者の南牧村教育委員会事務局社会教育係の有坂様は大変ユニークな方で冗談など混じりながら丁寧に説明や遺跡案内をして頂きました。井戸尻考古館とは一味違った縄文時代の学びになりました。

以上



人骨が出土した志なの入遺跡



社会文教常任委員会 所管事務調査報告書②

令和7年3月21日

社会文教常任委員会 山口 肇

訪 問 日 令和7年3月21日
訪 問 先 長野県北相木村考古博物館(栃原岩陰遺跡)
視 察 参 加 者 名取 久仁春 矢島 尚 織田 昭雄 西 明子 山口 肇
視 察 テ ー マ 北相木村の縄文時代の遺跡と展示品及び施設について
視 察 目 的 新井戸尻考古館建設に伴う施設や知識を学ぶため
視 察 内 容 北相木村考古博物館学芸員 藤森英二 様より説明頂きました



<建物>

1965 年発見され、その後 10 年間かけて信州大学の学生主体で発掘調査。考古館建築を条件に出土したものが村に返還されたとのこと。

過疎対策の起債により「北相木村考古白博物館 栃原遺跡」開館。(1992 年)

村の中心部にあり、村役場、公民館と並んで建っている。

考古館の下は、消防自動車や公用車の駐車場。

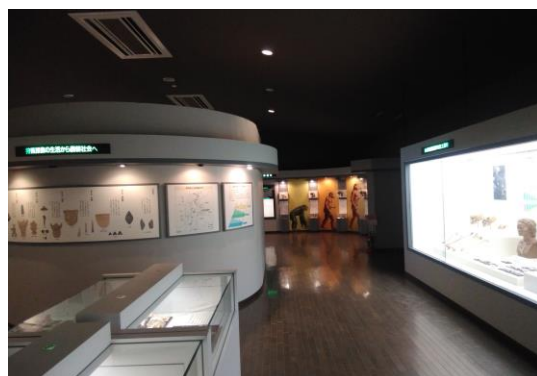
床面積は、現在の井戸尻考古館とほぼ同じ。

<展示室>

室内を暗くし、落ち着いた雰囲気。

展示ケースを白くすることで、展示品が見やすい。

展示室入口の人類の進化揭示は、設置時期の解釈によるもので、その後の研究調査により、変更が必要とのこと。このような揭示物を依頼して作成する場合は注意が必要とのこと。



(館内から入口方面を見る)



<展示品>

①北相木人 貴重な頭骨とそれをもとに復顔された北相木人(男女)
栃原岩陰遺跡の出土品

アルカリ性の灰の堆積物の中にあつたことで、保存された。

②土器や人骨、動物の骨、貝殻、それらを使った骨器(刺突具)骨角器(縫針、釣針、直釣針)、貝の装飾具が出土。

縄文人は使っていただろうと考えられるが、他の遺跡では出土していない。分解され土に還ってしまうと考えられるとのこと。

○出土する土器の数が少ない。(井戸尻遺跡の特殊性)

弥生時代の遺跡がない。温暖、平坦な佐久地方に移住したと想像。



<ジオラマ展示>

①北相木人の暮らし (館内入口)

出土品を全て展示しようと意図しているの
で、時間的なズレがあり、
見る人に誤解を与えて
しまう恐れもあるとの
説明。

ジオラマ展示の難し
さを感じた。

「岩陰(ノッチ)の生活」
説明パネル
ノッチのでき方



②岩陰の発掘

グリッド線、紅白の測量ポール、移植ごて、
刷毛、立ち入り禁止看板等々と出土品模型。
ジオラマ側面は、断面図(地層)が見られる
ように工夫されている。



(出口から館内を振り返る)



発掘現場の再現ジオラマの展示は、興味深かった。私にとって、初めて目にするジオラマ展示。

井戸尻考古館の復元住居と土器などの展示で、縄文人の暮らしぶりを再現した展示の良さを残しつつ発掘現場の再現ジオラマは、参考になった。ちなみに藤森学芸員は、井戸尻は、土器がたくさん出土しているので、それが再現できたら面白いかもと話してくださった。

<発掘様子を紹介する映像の展示>

発見が 1965 年、発掘が 10 年以上にわたるということで、写真や動画の映像記録が残されていた。その映像が、自由に見られることも貴重な展示だと感じた。

<収蔵庫>

道路等の建設に伴う調査発掘がほとんどなく、出土品も少ないため広い収蔵庫は必要ないとのことだった。

実施した調査発掘では、出土品は、棚一段ほどの量だったとのこと。

井戸尻考古館は、出土した土器等が多いため、収蔵庫は広いスペースが必要となる。

空調等の環境整備も必要か。



＜ハンズオンコーナー＞

入口 エントランスコーナーに設置されている。

土器を3Dプリンターで復元し、自由に触れる。

3D映像は、「北相木考古博物館3D」として公開。

映像資料は、全国各地の閲覧者が自由に動かすことができ、様々な角度から土器を観察できる。

村予算や長野県元気づくり補助金等を活用して実施。

実際に土器に触れる経験は、貴重。

土器片の模様と同じ模様を展示品から探すワークショップ

土器片の模様を布に写し取るフロッタージュを縄文祭り等で体験が、とても印象にのこっている。

＜来館者＞

一般 200 円 小中学生 100 円。

年間 700 人程。観光地ではないので、栃原遺跡に興味を持って来館する人がほとんど。

＜北相木村考古博物館報の発行＞

「栃原岩陰遺跡マガジン」を 2018（平成 29）年度から発行。

北相木村の考古学最新情報と考古学界隈のトレンドを紹介するフリーマガジンと銘打って、イベント紹介、研究レポート、考古学上の時事的な話題等を掲載。

2022 年 Vol.5 では、北相木村博物館 3D

2024 年 Vol.7 では、井戸尻考古館小松館長が、「北相木の縄文が実はすごかったという文」を寄稿。



< 栃原岩陰遺跡 >

国道 141 号線から北相木村考古博物館に向かう道路沿いに、遺跡がある。

